

# 「直川史談会」の

## あゆみについて

竹 中 百茂枝

(会員 直川村上直見)

直川村史談会の前身は、昭和四十一年三月に「村内の文化財を調査して記録に残し、村民の文化財に対する関心と理解を深めると共に、末永く後世に伝えるため」に直川村史調査会が結成されたことに始まる。会員数三十名で発足。昭和四十六年三月に規約等を定め「直川史談会」として新たに出発、現在に至っている。しかし、このような文化伝承の気運は昔からあったのではなからうか。私の手元に「郷土の音頭教本」というザラ紙の本があるが、これが終戦間もない昭和二十六年七月の直見公民館社会部の発行で、村内各地区に伝承する盆踊りの口説を全部集めてそれぞれの違いを正して後世に残そう

### 郷土の音頭教本



大分縣 南海部郡

直見公民館社会部

として発行されたものである。こうした努力が現在の文化伝承活動のもとになっているのではなからうか。

直川史談会の活動については、文化財の調査、研究、研修旅行、広報活動等であるが、調査・研究の結果は後記刊行物のおりである。尚、本村には直川村文化財調査委員会なる組織もあり、史談会々員も委員となって活躍している。

現在の史談会員数は三十二名で、現在も調査研究・研修旅行等に活発に活躍中である。

直川史談会刊行物一覽

書名	発行年月	内容
直川村郷土史第一集	昭和46・7	西南の役郷土史・赤木・吹原の古跡と伝説
第二集	46・10	直川村古代に於ける生活文化の考察 外
第三集	48・2	直川村に蜂起した百姓一揆
第四集	50・8	佐藤甚兵衛特集号
直川史談創刊号	昭和51・4	会長挨拶、梅牟礼城趾探訪記 外
第一号	51・7	西南役古戦場巡り・津島畑から尾高 知山へ
第二号	51・12	直川談会顕彰される。肘切神社祭典 挙行 外
第三号	52・1	直川村姓氏考 外
第四号	52・4	西南戦争と北川町
第五号	52・7	神社編・熊野神社(内水) 外
第六号	52・8	直川村姓氏考 外
臨時号	52・11	神社編(二)椈ヶ原八幡神社 外
臨時号	52・11	村指定有形文化財紹介(51・10・6 付指定分)

直川史談第七号	53・1	名馬池月 外
女大 学	53・1	復刻
直川史談臨時号	53・2	神社編(三)吹原富尾神社 外
第八号	53・3	宮司安藤家の祖先 外
長田良太郎歌集	53・7	郷土の歌人長田良太郎氏の歌集
直川史談第九号	53・9	佐伯史談会の南九州バス旅行に参加 して
直川の文化財	57・3	村内に所在する文化財を収録
直川史談第一〇号	58・2	あゆみ編 昭和54年から昭和58年ま で
第一号	58・10	間庭大師堂創立沿革 外
直川の庚申塔	64・1	直川村内に所在する庚申塔
直川の八十八ヶ所	平成7・8	直川村内にある八十八ヶ所霊場(三ヶ 所)
直川の記念碑	12・3	直川村内に所在する石碑を収録

以上